

野菜の需給・価格動向レポート(平成28年12月5日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	11月の価格情報					12月 11月下旬の関東及び 近畿ブロックの 入荷量 ()内は、本年 と過去3カ年平均 値との比率	主産地	生育及び価格の12月中旬までの見通し	「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準
	(参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格			(参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格				
		上旬	中旬	下旬					
キャベツ	72.93	208 (285%)	160 (219%)	109 (149%)	72.93	・7,788t (117%)	愛知(43), 千葉(36)	平均価格	愛知産は、9月の曇雨天の影響から回復に向かい、現在平年並みの出荷となっているものの、11月の気温の低下の影響により、今後は平年より少なめの出荷の見込み。千葉産は、9月の曇雨天の影響による生育遅れや病害も散見されることから、現在平年より少なめの出荷となっているものの、今後は10月以降の好天により回復が見込まれることから、平年よりやや少なめの出荷の見込み。
	76.91	220 (286%)	163 (212%)	110 (143%)	76.91	・2,765t (120%)	愛知(57), 兵庫(8)		愛知産及び千葉産の出荷が平年より少なめ若しくはやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
たまねぎ	83.77	67 (80%)	65 (78%)	65 (78%)	83.77	・8,200t (117%)	北海道(97)		北海道産は、貯蔵物からの出荷となっており、8月末の台風の影響はあったものの作柄は良く、一部産地では大玉傾向となっている。また、被害のあった輸送網についてもトラック等の振り替え輸送で対応していることもあり、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。
	83.77	67 (80%)	70 (84%)	68 (81%)	83.77	・3,598t (122%)	北海道(81), 兵庫(18)		北海道産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。
ねぎ (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ)	240.04	336 (140%)	342 (142%)	279 (116%)	240.04	・2,374t (95%)	千葉(26), 埼玉(17), 茨城(17), 群馬(12)		千葉産は、8月末の台風と9月の曇雨天の影響による下等級品の増加や生育遅れがみられることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。埼玉産は、9月の曇雨天の影響から、回復傾向ではあるものの細物が多いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。茨城産は、一部産地で曲がり等の下等級品が多めであるが、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、9月の曇雨天の影響により生育遅れがみられることから、現在平年より少なめの出荷となっているものの、天候が回復していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。
	467.01	673 (144%)	675 (145%)	517 (111%)	467.01	・176t (109%)	徳島(32), 高知(16), 三重(18), 奈良(9)		茨城産及び群馬産の出荷が平年並みと見込まれるものの、千葉産及び埼玉産の出荷が平年よりやや少なめ若しくは少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
はくさい	40.32	135 (335%)	100 (248%)	74 (184%)	40.32	・5,670t (106%)	茨城(93)		茨城産は、実需の引きが強く前進出荷となっていたが、11月下旬の曇天や降雪等の影響もあって、現在は平年並みの出荷となっており、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
	55.95	181 (324%)	140 (250%)	103 (184%)	55.95	・1,199t (80%)	茨城(28), 愛知(17), 和歌山(13), 兵庫(12)		引き続き茨城産の出荷が平年並みと見込まれるが実需の引きが強いことから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
ほうれんそう	385.11	655 (170%)	661 (172%)	485 (126%)	385.11	・806t (115%)	群馬(33), 茨城(24), 千葉(17), 埼玉(14)		群馬産は、11月下旬の降雨や降雪による日照不足や出荷遅れから、現在平年より少なめの出荷となっているものの、生育は順調であることから、今後は平年並みの出荷の見込み。茨城産は、9月の曇雨天の影響により遅れていた生育が回復し、順調であることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。千葉産は、天候は回復してきているものの、9月の曇雨天の影響が残り、引き続き平年よりやや少なめの見込み。
	461.74	757 (184%)	734 (159%)	437 (95%)	461.74	・429t (143%)	徳島(28), 福岡(27), 群馬(22), 岐阜(8)		千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、群馬産及び茨城産の出荷が平年並み若しくは多めと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
レタス (結球)	143.63	229 (159%)	237 (165%)	208 (145%)	233.85	・3,041t (99%)	静岡(38), 茨城(14), 兵庫(12), 香川(7)		静岡産は、生育は順調で品質も良く、大玉傾向であり、現在平年並みの出荷となっているところ、今後は定植遅れとなっていた分も含めてまとめて定植が行われたものが出荷を迎えることから、平年より多めの出荷の見込み。茨城産は、11月下旬の降雪の影響が懸念されるものの、今のところ大きな影響はなく生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。兵庫産は、9月の曇雨天の影響により定植遅れが見られることから、現在平年より少なめの出荷となっているものの、今後は遅れて定植されたものが出荷を迎えることから、平年並みの出荷の見込み。
	154.61	271 (175%)	253 (164%)	233 (151%)	226.75	・734t (80%)	兵庫(51), 徳島(23), 長崎(9)		茨城産及び兵庫産の出荷が平年並みと見込まれるものの、静岡産の出荷が平年より多めと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
きゅうり	289.03 370.98	465 (161%)	433 (150%)	358 (97%)	370.98	・2,523t (99%)	宮崎(34), 千葉(19), 高知(16), 埼玉(15)		宮崎産は、気温の低下による生育遅れ、着果不良及び成り疲れにより、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。千葉産は、11月の気温の低下による生育遅れにより出荷が遅れていることから、現在平年より少なめの出荷となっているものの、今後は出荷量の増加に伴い、平年並みの出荷の見込み。高知産は、生育は順調で草勢も良いことから引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、9月の曇雨天の影響により一部草勢の良いものがあるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
	298.96 350.33	500 (167%)	426 (142%)	331 (94%)	350.33	・889t (106%)	宮崎(49), 高知(28), 徳島(10)		千葉産、高知産及び埼玉産の出荷が平年並みと見込まれるものの、宮崎産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。
トマト (大玉)	347.41 349.23	522 (150%)	531 (153%)	611 (175%)	349.23	・1,758t (59%)	熊本(47), 愛知(17), 千葉(11), 静岡(10)		熊本産は、9月の曇雨天や10月の気温高による影響から着果不良や裂果が多く、小玉傾向でもあることから、現在平年より少なめの出荷となっているものの、これから出荷を迎えるものは順調に着果、肥大していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。愛知産は、9月、10月の曇雨天の影響により花とびが発生し、草勢も良くないことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
	371.67 326.61	520 (140%)	519 (140%)	619 (190%)	326.61	・554t (52%)	熊本(76)		熊本産の出荷が平年並みと見込まれるものの、愛知産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
なす	301.00 389.03	386 (128%)	456 (151%)	449 (115%)	389.03	・890t (120%)	高知(61), 福岡(19), 熊本(8)		高知産は、9月の曇雨天の影響から徐々に回復してきているものの、根張りが良くない状態であることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。福岡産は、8月の高温や9月の曇雨天の影響により花とびが発生しており、病害虫も多くみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
	263.21 397.74	402 (153%)	459 (174%)	434 (109%)	397.74	・390t (134%)	高知(39), 熊本(31), 福岡(15)		高知産及び福岡産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
ピーマン	378.83	571 (151%)	576 (152%)	495 (131%)	378.83	・946t (113%)	宮崎(34), 茨城(33), 高知(18)		宮崎産は、生育は概ね順調で9月の曇雨天の影響により生育が遅れていた分が出荷を迎えたことから、現在平年より多めの出荷となっているものの、今後は出荷も落ち着き、平年並みの出荷の見込み。茨城産は、9月の曇雨天の影響により徒長気味で、肥大が遅いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。高知産は、9月の曇雨天の影響から回復はしているものの、根張りが良くなく、現在平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は天候次第ではあるものの平年並みの出荷の見込み。
	371.29	528 (142%)	536 (144%)	466 (126%)	371.29	・433t (132%)	宮崎(43), 高知(23), 鹿児島(14)		宮崎産及び高知産の出荷が平年並みと見込まれるものの、茨城産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
だいこん	67.55	132 (195%)	125 (185%)	88 (130%)	67.55	・5,342t (98%)	千葉(48), 神奈川(46)		千葉産は、8月末の台風及び9月の曇雨天の影響による生育遅れから回復に向かい、生育は概ね順調であることから、現在平年並みの出荷となっているものの、今後は次期作の準備等があることから、平年よりやや少なめの出荷の見込み。神奈川産は、9月の曇雨天の影響から回復し、生育は順調で品質も良く太物も増えてきていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
	76.48	146 (191%)	148 (194%)	97 (127%)	76.48	・2,603t (92%)	和歌山(28), 長崎(28), 鹿児島(19), 徳島(15)		神奈川産の出荷が平年並みと見込まれるものの、千葉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
にんじん	105.86	233 (220%)	223 (211%)	166 (157%)	105.86	・4,265t (97%)	千葉(85)		千葉産は、9月の曇雨天の影響による生育遅れから、10月の好天により回復してきているものの、やや細物が多く、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。
	104.49	240 (230%)	241 (231%)	170 (163%)	104.49	・1,545t (99%)	長崎(55), 鹿児島(16), 鳥取(14)		千葉産の出荷が平年よりもやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成20～25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字および赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪府中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで前年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。
6 きゅうり、トマト、なすの11月の平均価格は、上段が上中旬、下段は下旬の価格である。

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	11月の価格情報 (参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	11月の価格情報			12月 (参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	11月下旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の12月中旬までの見通し	「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準
		上旬	中旬	下旬					
		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格							
いも類	さといも	220.97	233 (105%)	232 (105%)	242 (110%)	220.97	・464t (94%)	埼玉(58), 千葉(21)	埼玉産は、生育は順調であり、貯蔵作業で一時的に出荷が減少するものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、8月末の台風や9月の曇雨天の影響で小玉傾向ではあるが、年末需要に向けて計画的出荷となっており、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		217.56	292 (134%)	292 (134%)	282 (130%)	217.56	・180t (105%)		
	ばれいしょ	96.99	148 (153%)	152 (157%)	162 (167%)	96.99	・3,117t (80%)	北海道(84)	北海道産は、貯蔵物からの出荷となっており、8月末の台風による大雨の影響で歩留まりが低下しており、肥大もあまり良くないことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		96.99	150 (155%)	158 (163%)	164 (169%)	96.99	・1,185t (81%)	北海道(82), 長崎(18)	北海道産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成20～25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
 2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、赤字および赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで前年実績である。
 5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。
 6 きゅうり、トマト、なすの11月の平均価格は、上段が上旬、下段は下旬の価格である。

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	11月の価格情報 (参考) 過去5カ年平均価格	11月の価格情報			12月 (参考) 過去5カ年平均価格	11月下旬の東京及び大阪市場の入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の12月中旬までの見通し	「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準
		上旬	中旬	下旬					
		東京・大阪市場の旬別価格							
洋菜類	ブロッコリー	268.06	550 (205%)	543 (203%)	439 (164%)	297.74	・626t (75%)	愛知(26), 埼玉(26), 香川(18), 群馬(10)	愛知産は、9月の曇雨天や最近の気温の低下の影響により、根張りが悪く生育遅れが発生していることから、現在平年より少なめの出荷となっているものの、今後は生育が遅れている分が出荷を迎えると見込まれ、平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、9月の曇雨天の影響で根張りが悪く、11月下旬の降雪や気温の低下により花蕾の肥大が遅いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		346.18	622 (180%)	519 (150%)	451 (130%)	340.20	・152t (60%)	徳島(25), 鳥取(21), 香川(15)	愛知産の出荷が平年並みと見込まれるものの、埼玉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。
根菜類	ごぼう	222.66	368 (165%)	371 (167%)	373 (168%)	272.73	・286t (89%)	青森(64), 茨城(17)	青森産は、8月末の台風の影響により葉の損傷や茎の折れ等が発生し、細物や短物が多く、曲がりも見られることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		159.67	265 (186%)	259 (182%)	298 (187%)	185.34	・196t (78%)	茨城(43), 北海道(21), 青森(13)	青森産の出荷が少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
果菜類	かぶ	111.27	161 (145%)	160 (144%)	140 (126%)	118.03	・490t (103%)	千葉(83)	千葉産は、10月以降の天候の回復により、生育は概ね順調で太りも良いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		133.11	269 (202%)	229 (172%)	180 (135%)	129.00	・80t (73%)	徳島(30), 福岡(28), 石川(20), 千葉(11)	千葉産の出荷が引き続き平年並みと見込まれ、現在平年を上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。

注：1 平均価格は、過去5カ年(平成23～27年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
 2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
 3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、赤字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで前年実績である。

2 野菜の輸出入動向 - 野菜の輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について -

貿易統計によると、10月の野菜の輸入量は、生鮮野菜は、7万2千トン(前年同月比113%)と、前年を大幅に上回った9月(同130%)に引き続き、かなり大きく上回ったが、加工野菜が14万3千トン(同101%)とわずかな増加だったため、野菜全体では、21万5千トン(同105%)とやや上回る程度だった。このうち、中国産の野菜合計は12万2千トン(同100%)となった。

また、10月の中国野菜の輸入量は、前年と同様野菜の輸入量合計の半数以上を占め(56%)、2カ月連続で50%を上回った。

なお、10月の輸出量は、加工・業務用などに使用される加工野菜が、2,483トン(同113%)とかなり大きく上回ったものの、生鮮野菜が、2,159トン(同49%)と前年を大幅に下回ったため、野菜全体では、4,642トン(同70%)と、前年をかなり大きく下回った。

野菜の輸入数量

区分	平成26年		平成27年		平成28年10月		平成28年1月～10月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比	前年同月比	
生鮮野菜	884,735	104	826,845	93	72,170	113	700,732	98
加工野菜	1,785,487	96	1,752,337	98	142,610	101	1,452,736	100
野菜合計	2,670,222	99	2,579,182	97	214,780	105	2,153,468	99
うち中国産野菜合計	1,409,604	100	1,355,491	96	120,448	100	1,093,367	97
中国産シェア	53		53		56		51	

主な生鮮野菜の輸入先(平成28年10月)

区分	輸入合計		1位		2位		3位	
	前年比	国名 数量	国名 数量	国名 数量	国名 数量	国名 数量	国名 数量	
たまねぎ	23,232	99 中国 21,430	米国 1,758	インド 29				
にんじん及びかぶ	12,059	255 中国 10,825	豪州 1,155	米国 35				
ねぎ	5,668	103 中国 5,668						
ごぼう	4,721	104 中国 4,697	台湾 24					
結球キャベツ	3,600	49 中国 3,487	韓国 112					
ジャンボピーマン	3,520	106 オランダ 1,577	韓国 1,519	ニュージーランド 424				
ブロッコリー	3,200	276 米国 3,066	豪州 97					
結球レタス	2,251	457 米国 2,007	韓国 218	中国 25				

同輸入先(平成27年10月)

区分	輸入合計		1位		2位		3位	
	前年比	国名 数量	国名 数量	国名 数量	国名 数量	国名 数量	国名 数量	
たまねぎ	23,453	中国 22,815	米国 638					
にんじん及びかぶ	4,738	中国 4,524	豪州 201	米国 13				
ねぎ	5,504	中国 5,504						
ごぼう	4,555	中国 4,511	台湾 44					
結球キャベツ	7,386	中国 7,276	韓国 110					
ジャンボピーマン	3,306	韓国 2,238	オランダ 639	ニュージーランド 429				
ブロッコリー	1,158	米国 1,006	豪州 107	メキシコ 35				
結球レタス	492	米国 400	韓国 47	中国 46				

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：財務省「貿易統計」) ※四捨五入の関係上、合計と国別の数字は一致しないことがあります。

野菜の輸出数量

区分	平成26年		平成27年		平成28年10月		平成28年1月～10月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比	前年同月比	
生鮮野菜	9,429	101	22,924	243	2,159	49	23,759	188
加工野菜	17,061	120	20,493	120	2,483	113	19,141	117
野菜合計	26,490	113	43,417	164	4,642	70	42,900	148

主な生鮮野菜の輸出先(平成28年10月)

区分	輸出合計		1位		2位		3位	
	前年比	国名 数量	国名 数量	国名 数量	国名 数量	国名 数量	国名 数量	
たまねぎ及びシャロット	1,056	33 台湾 969	ロシア 85	香港 2				
ながいも等	638	99 米国 305	台湾 287	シンガポール 43				
にんじん及びかぶ	138	113 台湾 136	タイ 2					

同輸出先(平成27年10月)

区分	輸出合計		1位		2位		3位	
	前年比	国名 数量	国名 数量	国名 数量	国名 数量	国名 数量	国名 数量	
たまねぎ及びシャロット	3,209	台湾 3,194	香港 10	マレーシア 4				
ながいも等	646	米国 385	台湾 237	シンガポール 22				
にんじん及びかぶ	122	台湾 120	香港 2					

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、松岡、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
 ◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールアドレスから登録してください。
 ★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://www.alic.go.jp/suishin/yaikyuu01_000058.htmlに掲載しています。
 ※無断転載禁止 ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関しても、当機構は一切の責任を負いません。